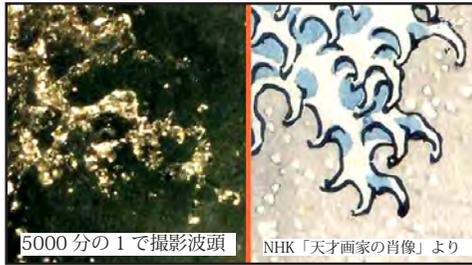


切手の中の浮世絵



初の浮世絵グリーンティング切手
北斎「神奈川沖浪裏」の波頭

3月、浮世絵がここまで遊ばれるかと思わせる切手を目にして、切手に使用された浮世絵を調べた。大和絵、錦絵とその違いは判然としない



グレートウェーブと称される「神奈川沖浪裏」の1/5000秒でしか捕えられない北斎の観察眼のすばさを示しているという波頭は金箔切手になってしまった。単片切手になって北斎が喜ぶであろうか。

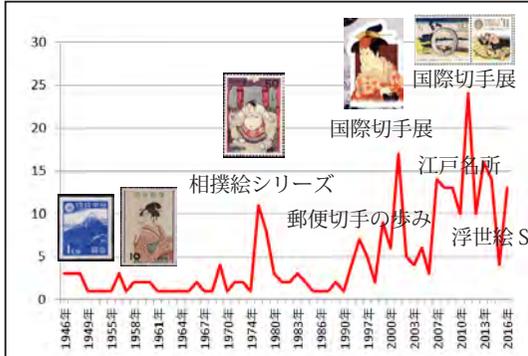


図1 浮世絵切手の発行種類数の推移

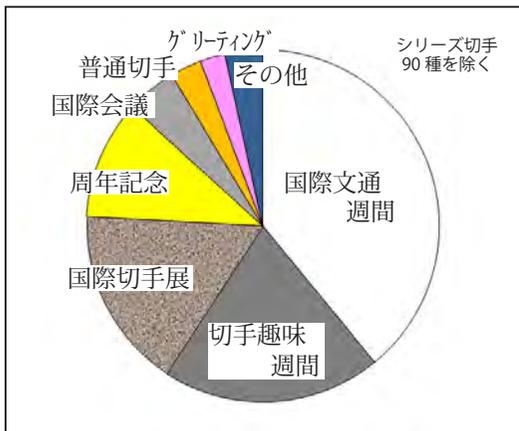


図2 浮世絵切手の発行目的別割合

が整理してみた。特殊切手を中心に276種の切手が浮世絵を使用していた。発行推移は図1のようにバラツキはあるが徐々に増えている。国際切手展とシリーズ切手の発行がその因となっている。発行目的別に全体を整理してみると、40%が一連の浮世絵シリーズ切手であった。残りの60%・186種を発行目的別に整理すると図2のように、郵趣関係の発行が浮世絵切手の75%を占めており、見返り美人に始まった浮世絵の切手趣味の世界での位置、役割が今日まで継続しているのかと考えた。

そこで切手趣味、国際文通週間切手の中で浮世絵がどう使用されてきたかを整理した。

まず、国際文通週間切手は58年間158種が発行されてきた。その中で2006～8年のグリーンティング切手を兼ねた37種を除いた121種を内容別に発行の推移を見たのが図3である。多くの種類の文化財が使用されており、浮世絵が広重、北斎の風景画を中心に60%を占めており、横長切手には風景画浮世絵にせざるを得ない面がどの程度影響しているか興味深い。中で広重の五十三次切手が年を置いて間歇的に全体の35%をしめていた。

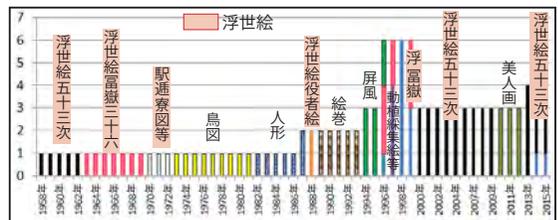


図3 世界文通週間切手になった文化財の推移

次に、切手趣味週間切手は64年間130種が発行され、その内容別発行推移が図4である。発行種、切手内容ともに文通週間とはかなり異なっており、発行種は少なく、国内使用を考慮してか趣味週間は近代絵画が多く、浮世絵は少なく、その内容も風景画でなく美人画が多くなっており、広重、北斎の絵も僅か1種しか発行されていない(月に雁、山下白雨)。この、海外、国内を考慮した2種の記念切手発行を考える参考に発行件数(年)別対象割合比較図を図5に整理した。浮世絵

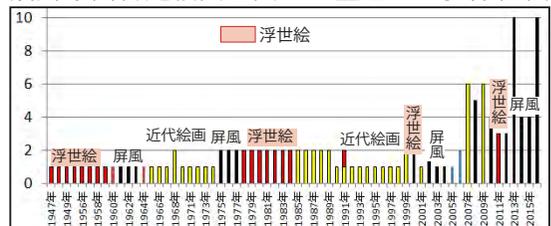


図4 切手趣味週間切手になった文化財の推移

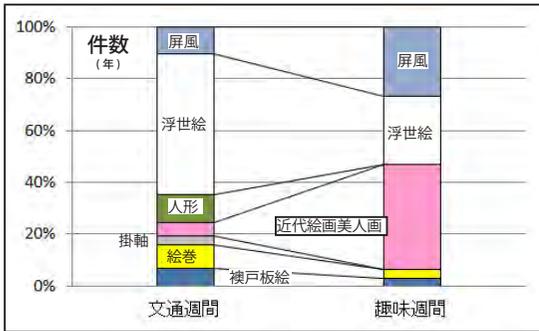


図5 文通週間、趣味週間切手使用文化財の件数比較が海外を意識して切手に採用されていることが明らかに示されている。

次に、絵師と絵で整理した結果が表1.2である。70%が広重、北斎、歌麿、写楽の4人の絵師の絵であり、かなり偏っている。更に、広重の風景画が69種もあり、浮世絵切手全体の4分の1を占めていた。これは広重の六十余州名所図会が横長でなく、縦長の一般的な浮世絵のサイズであることが影響しているのであろう。一方、北斎の絵は複数の切手になっているものが多く、21の絵が43の切手になり、他の絵師とは異なっており、特に富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」、「凱風快晴」、

表1、2 切手描かれ
た絵と絵師

	絵数
広重	101
北斎	43
歌麿	28
写楽	23
3代目広重	7
菊川英山	7
鳥居清長	7
菱川師宣	6
歌川豊国	5
鈴木春信	4
歌川国政	3
鳥高齋栄昌	3
豊原国周	3
伊藤芳邨	2
歌川国貞	2
懐月堂安度	2
橋本周延	2
香蝶楼豊国	2
西川佑信	2
鳥文齋栄之	2
梅堂国政	2
勝川春章	1
翠園堂春信	1
不明	16
総計	276

絵名	数	絵師
富嶽三十六景	36	北斎
東海道五十三次	48	広重
六十余州名所図会	21	広重
合計	105	
見返り	6	師宣
山下白雨	6	富嶽
凱風快晴	6	富嶽
神奈川沖浪裏	5	富嶽
甲州三坂水面	2	富嶽
甲州三島越	2	富嶽
上総の海路	2	富嶽
程ヶ谷	2	富嶽
武州千住	2	富嶽
隅田川関屋の里	2	富嶽
尾州不二見原	2	富嶽
葦の上の鳥たち	3	北斎
ピードロ	3	歌麿
市川高麗蔵	3	豊国
月に雁	3	広重
日本橋	2	五十三次
由井	2	五十三次
箱根	2	五十三次
日本橋	2	五十三次
小田原	2	五十三次
周防岩国錦帯橋	2	六十余州
海老蔵	2	写楽
岩井半四郎	2	写楽
大谷鬼次	2	写楽
岩井桑三郎	2	国政
雨中湯帰り	2	清長
総計	69	



「山下白雨」の多さが目立ち、これらはシート余白にも使用され、更に、次期旅券の査証ページに使用されることと、図6の内容も含め他の絵師にも増して対外的に存在感をもつ浮世絵師と位置づけられるかと考えられる。

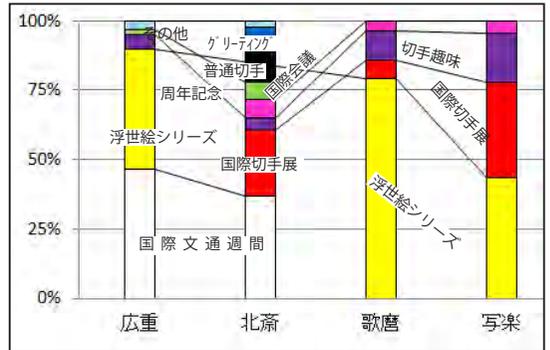


図6 絵師別使用切手発行目的別割合

次に、4人の絵師の絵の使用のされ方を整理すると図6のように北斎が多くの目的に使用されながら、浮世絵シリーズに無いのは縦の絵が少ないからであろうか。広重は風景浮世絵の使用目的限定の結果である。

最後に、この整理作業のきっかけになったデフォルメという観点でいくつかその原画と切手を比較して、浮世絵が今後どのように切手に使用されるか考えてみたい。(編集子)

